

「教員免許状更新講習B」

1 趣旨

教員免許状更新制の実施に伴う更新講習を宮城教育大学と連携して行う。学校教育における体験学習の意義を再確認するとともに、その活用について考える。そのために、青少年教育施設で行われているプログラムを体験し、基本的な考え方や技術等を身に付け、学校現場での展開方法について検討する。

2 主催

国立大学法人 宮城教育大学

3 共催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

4 期日

平成24年12月25日（火） [日帰り]

5 参加対象と人数

小学校・中学校教諭 20名

6 参加状況

	宮城県		福島県		計
	男	女	男	女	
受講者	10	8	2	0	
計	18		2		20

7 日程

時刻	9:00	9:10	10:10	10:45	12:15	13:00	15:00	15:30	16:00	16:30	
内容		受付 【講義1】 「学校教育における体験活動」	宮城教育大学 教授 笠間 賢二	【講義2】 「体験学習法の理解」 花山自然の家職員	【実習1】 「PA（アイスブレイク）」	昼食	【実習2】 「新雪ハイキング」ハイキングコース 花山自然の家職員	【実習3】 「ふりかえり」 花山自然の家職員	【実習4】 「体験学習法の進め方」まとめ	【試験】 三十分間	【諸連絡】

8 実施状況



宮教大笠間先生の講義



P Aの手法を使ってアイスブレイク



新雪を踏みしめてハイキング

宮城教育大学との連携による教員免許状更新講習の2回目である。講習時間が6時間となったが、午前9時過ぎから始まった宮教大の笠間先生の講義では、「学校教育における体験活動」について宮城県と福島県から来所した20名の幼小中学校の先生方が積極的に講義に聞き入った。

自然の家の職員による講義では、体験学習法の進め方について学んだ。体験学習法のプログラムは、体験→指摘→分析→一般化のサイクルを繰り返しながら、体験活動をスパイラルに進める中で表面には見えにくい互いの信頼関係の構築に効果的な手法の一つといわれ、現在全国的な学校課題となっているいじめ問題への効果的な指導法のひとつとも考えられる。

講習では、午前中は受講者にアイスブレイクの手法を学んでもらい、互いの信頼関係が築けた所で、午後に、協力し合ってハイキングコースを回るという「新雪ハイキング」体験を行った。終了後、体験学習法のサイクルの中にある指摘→分析として「ふりかえり」の作業を行い、学校現場での具体的な活用方法について本講習での体験をもとに考えていただいた。

更新講習Aと同様にBでも「講習で得たものを、実際の学校での指導場面に役立てられるように、各自が消化して持ち帰ってもらいたい。」と主催者としての願いを持って実施した。受講者からは「体験活動の意義やふりかえりの意味、持たせ方など、具体的に説明していただいたことは良かった。3学期から体験活動のサイクルとふりかえりを強く意識して取り組まなければと思った。」などの前向きなとらえがあった。

9 成果と課題

(1) 成果

- ・ アクティビティの前にアイスブレイクを行うことは、講習内容と相まってグループ内の親和関係ができ、スムーズな活動に移行するために大切な観点である。今後も継続することが必要である。
- ・ 教員に花山の自然を使ったアクティビティを体験（非日常体験）してもらうことで、花山の活動のよさを知ってもらう機会になった。講習としてだけでなく、今後の利用の仕方への理解の一助となった。

(2) 課題

- ・ 当日は降雪があり、当初予定していたオリエンテーリングを、安全面に配慮してハイキングに変更した。活動を通して体験学習法について考え、実感としても理解してもらうことが必要であるため、今後も天候を直前まで確認してプログラムに余裕を持たせ、柔軟に進めることが必要である。
- ・ 冬場の講習であり、終了時刻には外が暗くなるため、講習時間を確保した上で、帰りの時刻について大学側と連携しながら工夫して進めていきたい。